

3. (1) 草津市中心市街地活性化フォーラム3 開催結果について

概要

開催日時：平成25年6月20日（木） 午後7時から午後9時

場 所：草津アマカホール

アンケート回答数：80名（市の報告）・48名（基調講演について）

開催目的

- ①草津市中心市街地活性化基本計画（案）について、広く市民に知ってもらい、理解を深めてもらう
- ②設置された中心市街地活性化協議会について、広く市民に知ってもらい、新たな協力者を発掘する等興味を持ってもらうきっかけづくりにする
- ③創立した草津まちづくり株式会社について、広く市民に知ってもらい、新たな協力者を発掘する等興味を持ってもらうきっかけづくりにする

次第

1. 開会
 - ・橋川市長による挨拶
2. 報告「活性化への取組みの今」～草津市中心市街地活性化基本計画（案）について～
 - ・まちなか再生課 高谷専門員による説明
3. 基調講演「小さなまちの大きなチャレンジ」
 - ～兵庫県丹波市で市民主導のまちづくりに長年取り組むリーダーが語る～
 - ・(株)まちづくり柏原 代表取締役 荻野吉彦氏による講演
4. 意見交換
 - ・回収した意見用紙から質問を抽出し、澤田理事および荻野氏が質問に回答
 - ・進行は、高田アドバイザーが行う
 - 高田昇（草津市中心市街地活性化担当アドバイザー）
 - 荻野吉彦（(株)まちづくり柏原代表取締役）
 - 澤田圭弘（草津市都市建設部理事（都市再生担当））
5. 閉会
 - ・浅見都市建設部特命監（都市再生担当）による挨拶

（裏面あり）

意見交換で出された意見

- ・計画案が国に認定されるとどのような財政的な支援があるのか。絵に描いたもちにならないか。
- ・駅東口にあるエルティ 932 を今後どのように改善していくのか。
- ・どのようにして人が来るようになるのか具体性が見えない。人が来れば何でもできるのか。空き店舗を埋めることも大切だが、連続性が必要だ。
- ・まちづくり会社も良いが、核になる人が必要ではないか。
- ・旧草津川を境に商業地区と歴史文化ゾーンに分けて考えてはどうか。商業地区については、多くに分かれている町内をひとつにまとめる必要があり、歴史文化ゾーンは多くの資源を有しており、面としての広がりを持たせることが必要だろう。
- ・中心市街地活性化を進める体制で、それぞれの役割がどう違うのか少しわかりにくい。
- ・活性化の目標のひとつに、「個性的で魅力ある店舗」とあるが、その定義や具体的なイメージがわからない。魅力店舗は現状ゼロとされているが、駅東口には百貨店やスーパー、西口には大型商業施設もある。既存店はどうするのか、これらと共存する方策も必要ではないか。
- ・基本計画の詳細がわかりにくかった。
- ・生業が活かされるまちづくりでないと長続きしない。ボランティアだけではだめだと思う。
- ・住民の参加が大切であり、今日のフォーラムも市民参加が少ないのではないか。
- ・従来の権利者などだけが中心に取り組む内容では新味が見当たらない。
- ・本来の旧市街地の活性化がなおざりにされていると感じる。住民が住んでいる大路の新市街地の商業対策が目立ち、真に住民の施策が乏しい。
- ・間違いなく訪れる高齢化社会に対応すべく、市外の人とも一緒になって魅力ある商店街を形成し、草津のシンボリックな出会いの場にする必要がある。